

友愛

Y U A I

104

平成24年2月1日発行

特集 地域に開かれた
子育てサロン

特集 『軽い』食器から
『想い』食器へ。

- 市民文化講座を開催
- ふれあい通信
- スタッフエッセイ



社会福祉法人 北海道友愛福祉会



保育園併設のセンター型「ゆうあい」

地域に開かれた 子育てサロン

専門の保育スタッフのいる保育園に併設された子育てサロン「ゆうあい」。自由開放日の充実や意欲的なプログラムなど、子育て支援の新しい可能性を感じさせます。



保育士スタッフ
小川 麻子さん

地域に馴染んだ愛保育園に、 子育てサロンを併設。

江別市の愛保育園は平成18年にリニューアルし、清潔感のある建物とともに交通の便も良い恵まれた環境の保育園として知られています。「入園待機中の人も多い保育園」という評判ぶり。主任保育士の中島雅子さんは、「四季を感じ、自然を体験しながら丈夫なカラダづくりを行い、さらに人との関わりも学んでいける子どもに育ってもらいたいですね」と語っています。保育スタッフは明るく子どもたちに接するだけでなく、はだし保育などを取り入れ子どもたちの健康的な成長を目指しています。また最近では、バランスのよい成長を促すリズム体操を導入。さらに、「おはよう」「さようなら」など日常の挨拶がきちんとできるよう、礼儀を重視した保育や、同じ法人グループ施設のお年寄りの方々とのふれあい活動、幼年消防クラブ員として年1回消火栓の清掃なども行っています。その愛保育園に、地域に開かれた子育てサロン「ゆうあい」が併設されたのは平成18年のリニューアルの時でした。

自由な開放日を週3回と充実させ、専門の保育スタッフで対応。

ひと昔前までは、公園デビューという公園に子どもたちが集まる状況がありました。最

「保育園が変わるだけで、こんなに変わるの？」と感心しました。

札幌から引っ越してきて長女を愛保育園に入園させましたが、驚くほど性格が明るくなりました。たしかにエネルギーが豊富で、元気のいい保育園という印象があります。ここは新しく建物もきれいなので、4カ月の次女を連れて子育てサロンも利用しています。



捻金 千晴(ねじがねちはる)さん

近では公園に行っても子どもが誰もいなかったり、そもそも少子化が進み地域から子どもがいなくなってきたままです。子育てする親にとつて、子どもと同年齢の遊び相手を見つかったり、親同士が情報を交換できる子育てサロンの存在は、少子化の中でさらに重要性が高まっているのです。

子育てサロン「ゆうあい」の特長は、保育園に併設されているため担当スタッ

フは保育の経験が豊富。「一般のボランティアさんではなく、いつも子どもと接している専門の保育スタッフが見ていくれるので安心感が大きい」といわれています。また、札幌などの多くの子育てサロンが週1回、地域の児童会館などを借りて行うのに対し、「ゆうあい」は専用の施設を開放し、そこに集まって行うセンター型の子育てサロン。月、水、金の午前中、週3回を自由開放日とし、子育て中の親子なら誰でも利用できる

ようにしています。口コミで評判が広がり、毎回30名くらいの親子が利用しています。

母親向けの独自プログラムで、子育てのストレス解消へ。

子育てサロン「ゆうあい」の子育て支援の特長は、自由開放日だけではなくテーマを絞った講習会を他の曜日にも行っていることです。主に火曜日に行われている「あそびのひろば」は、救急法や栄養学の講師を招いての講習会を実施。さらに、お母さん向けには専門講師による骨盤体操やフラワーアレンジメントなどのプログラムを組み、その間、子どもたちは別室でボランティアがお世話します。「先生とマンツーマンでいる時間は、子どものことを気にすることなくリフレッシュできます」と評判も上々。さらに、子どもの年齢別に親子が集まり、子ども同士、親同士でふれあうプログラムでは、同年齢の子どもを持つ親ならではの悩みを話し合え、コースが終了する頃には親も子も友達になって、子どもが成長してからも交流が続くようになること。このようにきめ細かな子育て支援を行っているのも保育園併設の「ゆうあい」な



小坂 由香(こさか ゆか)さん

「ゆうあい」で、子育てのさまざまな悩みが解消できました。

それまではネットで調べたりしていましたが、息子がなかなかご飯を食べてくれない!とスタッフに相談すると、「いま元気に遊んでいるんだから、あまり気にしなくても大丈夫だよ、間違っていないよ」とアドバイスされ、心がスーッと軽くなるのが分かりました。

1日中家にいると息が詰まるので、開放日には毎回きています。

ここはいつ来てもアットホームで、日頃のストレスを解消できます。臨床心理士などから専門的なアドバイスを受けられるなど、いろいろな情報を得られるので安心です。親の精神状態が良いほうが、子育てにも良い影響がでると思います。



本所 理恵(ほんじょりえ)さん

らではといえます。

専門の保育スタッフとともに、さらなる子育て支援の充実へ。

今後、少子化が進むことが予測される中、地域で孤立する子育てする親たちへの支援は、さらに重要になってきています。その拠点となるのが、自由に誰もが気軽に利用できる子育てサロンの存在です。「これからの子育てサロンは、

地域のボランティアさんに頼るだけでなく、いつも子どもたちと接しているわたしたちのようなスタッフによって、プログラムや対応の充実を図っていくことが求められていると感じています」と保育スタッフの小川麻子さん。

今年5年目を迎える子育てサロン「ゆうあい」ですが、すっかり地域に定着し、参加者の中には、わざわざ近くに引っ越してくる常連さんもあるほど。いま子育てサロンは子育て支援だけではなく、地域の幅広い世代間交流の場として、地域の絆を強める大切な役割も期待されているのです。

親子が居心地の良い、安心して過ごせる場に。



愛保育園 主任保育士
中島 雅子さん

わたしたち保育スタッフは新しい知識を身に付けるなど、より良い「子育て支援」の環境を目指しています。今年には救急時の講習なども取り入れ、さらに親子の間づくりのお手伝いや、子育てに役立つ情報の提供なども積極的に行っていきたいと思っています。

ふれあい通信

北海道友愛福祉会と利用者の皆さんの日々のふれあいを、あふれる笑顔の写真と一緒にご紹介します。

友愛 ナーシングホーム

『臼田先生最後の書道教室』

毎週金曜日に書道教室でご指導いただいていた、臼田先生が1月で退任されました。先生は、平成5年から17年間の長い間、たくさんの方に書道を教えてくださいました。書き上げた物は展示し、ご入所者はそれを楽しみにし、そして熱心に取り組まれました。お忙しい中ご指導いただき有難うございました。



愛保育園

『待ちに待った雪遊び!』



子ども達を楽しみにしていた、雪遊びの季節がやってきました♪
みんなテキパキと準備し、我先にと園庭へ飛び出していきます(〇〇)
雪だるまやかまくら作り・そり遊び等、冬にしかできない遊びを思いっきり楽しんで、元気な体作りをしています!!

ヘルパーステーション 友愛野幌

『江別市訪問介護事業所合同研修会』

江別市内の訪問介護事業所が連携し、訪問介護員のレベルアップを目的に合同で研修会を開催しました。今回は「基本介護技術」「福祉用具の有効な利用方法」等についての研修会を行いました。参加した職員からは「重心移動の重要性、骨を意識した介護、スライディングシートの活用、介護前後のストレッチをする事で介護者を守れることなど、大変参考になる研修でした!」と、日常業務だけでは知り得ない知識・技術を学ぶ機会となりました。



※北翔大学介護技術実習室・計4回のべ188名参加

ケアハウス ゆうあい

『心をこめて!!』



今は、雑巾も売っている時代…「昔は、こうやって沢山作ったんだよ」と一針、一針こころを込めて縫いました。出来上がった雑巾は、近隣の中学校へ…。今頃、校舍を磨いていることでしょうか(*^_^*)

恵明園

『アイマスク体験です!』



恵明園では職員のアイマスク体験を実施しています。目の不自由な方の食事や車の乗り降り、施設内移動を定期的に体験し、ご利用者側に立ってみて初めてわかる「気付き」を大切にしています。皆さんもご自宅で食事のアイマスク体験を試してみたいかがでしょうか?

静苑ホーム

『年の初めは艶やかに』



2012年、あけましておめでとうございます!
静苑ホームの元日は、女性介護士が晴れ着を披露して、ご利用者の皆さんのもとに新年のご挨拶に回らせていただきました。それぞれ色鮮やかな着物を身にまとい、普段とはまた一味違った介護士の一面をご覧いただけたかと思えます。どうぞ今年もよろしくお願いたします。



北海道友愛福祉会 市民文化講座を開催

今、こたますとき… ～みずぎさんのまなざし～

北海道友愛福祉会 市民文化講座
平成23年11月13日 江別市コミュニティセンター



講師 矢崎節夫
(金子みすゞ記念館 館長)



日本全国が悲しみに包まれた東日本大震災。自然災害を前にした私たちは、あまりにも無力でした。未曾有の大災害を前に、今わたしたちに何ができるのか地域のみなさんと一緒に考えたいと、「絆」をテーマにした市民文化講座を開催しました。

講師には金子みすゞ記念館 館長 矢崎節夫氏をお迎えし、ACジャパンのCMで朗読され話題を呼んだ金子みすゞさんの詩から、大切な家族・友人、地域との「絆」について考えました。

今、あなたにとって大切なものは何ですか？矢崎節夫氏は会場の聴衆に問いかけます。被災し避難所で質問に答えた幼い女の子は、亡くなったみんなの命と笑顔で言葉を紡ぎました。私たちは、本当に大切なものに気付いていないのかも知れません。

みすゞさんの詩は、いつもやさしさに溢れている。わたしよりも、あなたを先に考えるから、心に深く響く。日常のほんの些細な出来事でさえ、幸せに感じる事が出来る。

みなさんの中にある大切な絆、今日帰ったらすぐに、想いを言葉で伝えましょう。幸せはこたまし、響き合います。と講座を結びました。

当日は300人を超える参加をいただき、ありがとうございました。会場にてご協力をいただきましたご寄付につきましては、金子みすゞ基金を通じ東日本大震災で被災されたみなさまへの復興支援に充てさせていただきますことをご報告いたします。



写真提供 金子みすゞ著作保存会



静苑ホーム介護士 大槻 智美さん
将来は、食器だけでなく、コーヒーカップなどにも挑戦できればと思っています。プラスチックよりも陶器の「自分だけのカップ」の方が、美味しく飲めると思います。



いつも同じ場所に料理を配置でき、奥の料理も取りやすく、食べやすくなりました。



料理の位置がいつもバラバラ。奥の料理が取りづらい。

熱い想いがカタチとなった、『軽い』食器から『想い』食器へ。

静苑ホームスタッフによる、毎日の食事を楽しく感じられる「世界にひとつだけの食器づくり」への取り組みが、全国老人福祉施設研究会議で最優秀賞を受賞。

何よりも食べることへの楽しさを
感じて欲しかったのです。

『想い』食器を制作した大槻智美さんらのスタッフが務める静苑ホームには、目の不自由な方を含めさまざまな身体的な不調をかかえている方々が少なくありません。そんな方々のため、さまざまな機能を持つ自助食器がありますが、本来なら一人一人の症状に合わせた食器が理想です。その「使う人に合った食器の実現へ向け、一歩あゆみはじめたのが、『軽い』食器から『想い』食器への取り組みでした。

「食べこぼしや食事への意欲という面から食器を考える」と、介護の現場で働く人間なら誰もが不満を感じていただろうと思います。」と語るのは、大槻さんらと『想い』食器づくりに取り組んだ田村大輔さん。同じ法人グループの施設 恵明園で陶芸教室があり陶芸の専門家がいたため、「使う人に合った食器を一から作ってみよう！」と、静苑ホーム全体で取り組むことになりました。

早速、スタッフみんなで陶芸の先生を訪ね、教えを受けながら制作に着手します。しかし、いざ自分たちで粘土から作り焼窯に持参すると、大きさまや形状が機能的に不完全だったり、すぐ割れてしまうなど、試行錯誤の連続でした。ようやくて最初にできたのが、視覚障がいのある72歳の男性入居者に作った取手付きのお皿。その男性はお皿の持ちにくさやスプーンでのすくいづらさから食べこぼしが見られていました。また次にできたのは、こちらも視覚障がいのある93歳の女性入居者に作ったワンプレート型のお皿。この女性は料理の置いてある位置がわからなくなったり、奥に置いてある食事に手が届きづらかったりするのを解消するため、すべてのメニューが盛り付けられるワンプレートのお皿を作成。その結果、お二人とも「世界にひとつだけの食器」を強く意識し、食べることへの関心が高まったといえます。

この取り組みは、『軽い』食器から『想い』食器へ」という素晴らしいタイトルコピーとともに、全国老人福祉施設研究会議で最優秀賞を受賞。「いまご入居者の中で50人位の方が「世界にひとつだけの食器」を必要としています。どんな食器がいいのか一人一人の症状についてスタッフと検討し、今後もどんどん作っていききたいです。」と大槻さんは話します。



スタッフ全員で取り組みました。



割れてしまったものもたくさん。



なかなか理想通りのものはできませんでした。

みんなで何度もチャレンジ!



持ちにくい。浅くてすくいづらい。



取手を付けて持ちやすく、深くても大きめにすることですくいやすくなりました。



静苑ホーム介護士 田村大輔さん
今回の『想い』食器で賞をいただいたのは、ご利用者に合わせた個別な取り組みが評価されたからだと思います。これからもご利用者へのきめ細かな対応を心がけていきます。

スタッフ エッセイ

昨年4月から愛保育園に勤務し、現在2歳児クラスを担当している古谷香澄です。宜しくお願いします！私の趣味は音楽鑑賞で、ライブへ行くこともあります☆歌ったり踊ったりすることが

大好きなので、保育園でも子ども達

と楽しみながら過ごしています♪チームになった『マル・マル・モリ・モリ!』のダンスも、マスターしましたよ(^v^)
上手でしょ!?

愛保育園 古谷 香澄



平成23年10月1日より江別市介護支援専門員連絡会を設立し、そこで会長をさせて頂いております。全国・全道レベルでの団体はあったのですが、地域レベルでの問題を解決する団体がなく、地域の介護支援専門員に声をかけ、有志の会を立ち上げました。日常業務をしながらなのでやりたいことがすぐにはできませんが、江別市で在宅生活される方が住みやすい環境となるようこれからも頑張っていきたいと思っております！

居宅介護支援事業所友愛野幌 成田 孝友



歌って!!踊れる!!相談員として、昨年4月より勤務しております。歌と踊りが相談員として必要??

意外と役に立っております。

そんな私の休日の過ごし方は、春から秋にかけての庭いじり。以前は花壇でしたが、2年前から野菜づくりにはまっています。今は春の畑に思いを馳せ、雑誌を参考に計画を練っています。今年は、この趣味をケアハウスの花壇づくりや剪定に役立て、入居者の皆さんと一緒に楽しみたいと思っています。

ケアハウスゆうあい 川崎 美津夫



私は中学～高校までの6年間吹奏楽部に所属していました。たくさんの演奏会やコンクールを通してたくさんの笑顔と拍手を貰いました。そんな『音楽』が大好きで、昨年からはまた吹奏楽を始めました。

札幌市民交響吹奏楽団に入団しホルンを吹いています。春と冬に演奏会、夏にはコンクール。素敵な仲間と共に練習に励んでいます。4年のブランクがあるものの今も大好きな音楽を続けられていることを幸せに思います。

静苑ホーム 高嶋 菜美貴



テレビのアナログ放送は昨年7月24日で終了し、地デジ対応のテレビが必要になりました。多くの方は既に買い替えはお済みだと思います。実は、視覚障がいの方には、地デジの恩恵はあまりありません。ラジオでテレビが聞けなくなり、リモコンのボタンが増えて難しくなりました。

そんな中、通称「しゃべるテレビ」が販売されています。目の不自由な方だけでなく、高齢者、機械の苦手な女性にも評判が良いと聞いています。障がいを持っている方が使いやすいものは、そうでない方にも使いやすいことが多いようですね。

恵明園 石岡 浩司



10月14日から16日までの3日間、岩手県釜石市にボランティア活動に行ってきました。私が小さい頃から教会への奉仕活動に参加していることもあり、青年ボランティアの一環として、全道教会約150名で参加しました。移動のため参加できたのは1日で、内容は主に川のヘドロ取りを行いました。ヘドロの量が一番多かったのですが、他にも家の物と思われる釘のたくさん刺さっている板、瓦などが出てきました。短い時間でしたが、ボランティア活動を終えて感じたことは、震災現場を見て、自分が生きている幸せ、大切さ、家族との絆を強く感じ、学ぶことができました。また、仲間達と行った達成感のかけがえのないものとなりました。

友愛ナーシングホーム 鈴木 佐江子



社会福祉法人
北海道友愛福祉会
<http://www.yuaifukushi.jp>

介護老人福祉施設・特別養護老人ホーム
短期入所生活介護

静苑ホーム

〒069-0806 江別市新栄台46番地の10
TEL (011) 389-4165 FAX (011) 389-4166

友愛野幌

TEL (011) 391-3540 FAX (011) 389-4170

●通所介護

●訪問介護

●居宅介護支援・在宅介護支援センター

児童福祉施設

愛保育園

〒069-0812 江別市幸町8番地の9
TEL (011) 384-0330 FAX (011) 382-6587

江別盲人養護老人ホーム・短期入所生活介護
ヘルパーステーション

恵明園

〒067-0027 江別市豊幌美咲町23番地の8
TEL (011) 383-3351 FAX (011) 383-3598

友愛江別

TEL (011) 383-3362 FAX (011) 383-3598

●通所介護

●居宅介護支援・在宅介護支援センター

軽費老人ホーム

ケアハウスゆうあい

〒069-0806 江別市新栄台46番地の12
TEL (011) 382-1123 FAX (011) 382-1022

介護老人保健施設・短期入所療養介護
通所リハビリテーション・居宅介護支援

友愛ナーシングホーム

〒069-0806 江別市新栄台46番地の12
TEL (011) 382-1110 FAX (011) 382-1022

江別市受託事業

野幌第一地域包括支援センター

〒069-0801 江別市中央町31番地の6
TEL (011) 381-2940 FAX (011) 381-2941

●介護予防支援